

抱っこひも安全協議会
2019年度抱っこひもの安全な使用に関する調査
結果報告書

2019年10月
ホームページ分科会



もくじ

抱っこひもの安全な使用に関する調査について

1. 質問と回答まとめ
2. 月齢別に見るヒヤリハット事例と発生状況
3. 新しい調査項目
 - I. 「自転車の使用」
 - II. 「使用後の抱っこ紐について」

抱っこひもの安全な使用に関する調査について

抱っこひも安全協議会では、年に1度、抱っこひもの使用状況やその使用経験を集め、事故またはヒヤリハット事例を収集し、会員への周知をはかっています。そのデータは会員各社へ提供し、製品改善、取扱説明書のコンテンツ改善、安全啓発活動へ活かして参ります。今回はその第3回目の調査を行いました。

2019年度は3回目ということで、以下のような質問の追加を行ないました。

自転車に関する質問

昨年秋に抱っこで自転車で転倒しお子さまが亡くなるという事故がニュースで大きく取り上げられました。抱っこひもをして自転車に乗る経験の有無を質問に加えました。

二次使用に関する質問

おさがり・中古品と、ヒヤリハットの経験について、データを集めることにしました。

下記項目は、昨年度より継続している内容です。

安全な使用についても回答を収集する

抱っこひも安全協議会の活動を評価するという観点より、「安全に使用できた」「事故・ヒヤリハットがあった」、双方のデータを集め、毎年私たちの活動を評価します。

会員各社のユーザーから回答を募る

回答が一部メーカーのユーザーに片寄ると、安全性の評価にも偏りがでてしまいます。会員各社がそれぞれ回答者を募ることで、より現実の状況に近いデータを収集します。

メーカー名・モデル名も収集する

安全な使用・事故やヒヤリハットの事例は、該当メーカーへ直接データ提供いたします。製品改善や取扱説明書の内容、接客時の安全啓発などを通し、役立てて頂きます。

調査方法

インターネットで行うアンケート調査を実施しました。募集は各メーカーよりSNSやホームページ電子メールにて呼びかけました。約1ヶ月の募集期間を設け、回答者に対しては、抽選で50名に500円のクオカードをプレゼントしました。

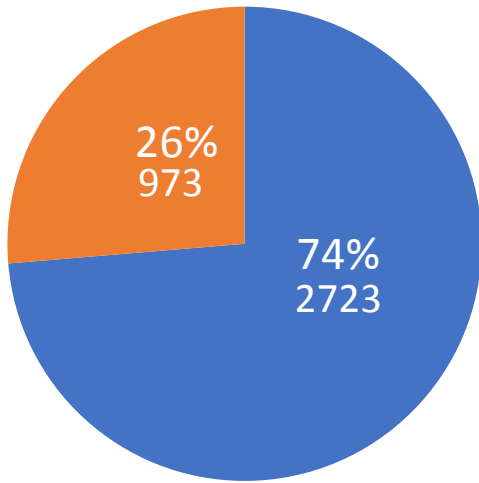
応募結果

7月22日から8月31日まで募集を行った結果、3,696件の回答を得ることができました。

2018年度は2,497件、2017年度は758件の回答でした。昨年よりも約1.5倍の回答を頂いています。

質問と回答

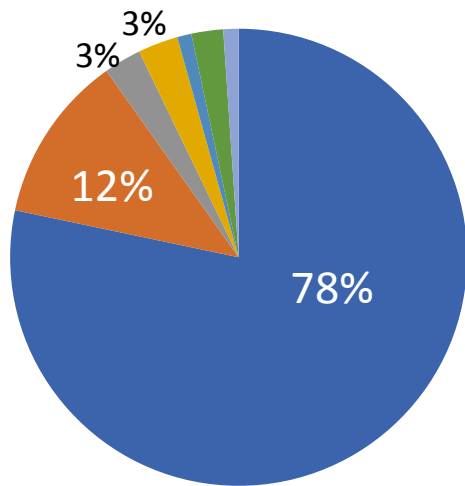
抱っこひもを安全に使用できていますか？使用できましたか？



昨年と比べると、ヒヤリハットが31%⇒26%で、5ポイント減でした。

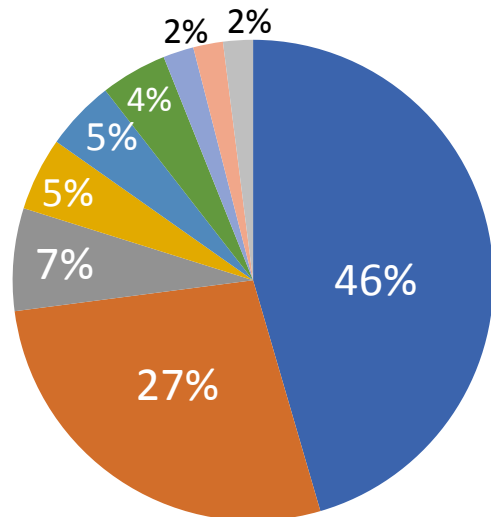
- 安全に使用しており、ヒヤリハット、製品事故はありませんでした
- ヒヤリハット、製品事故がありました

抱っこひもの種類



- 腰ベルト付き抱っこひも
- 腰ベルト無し抱っこひも
- スリング
- ヒップシート
- 紐で結ぶタイプの抱っこひも・おんぶひも
- ラップ
- その他

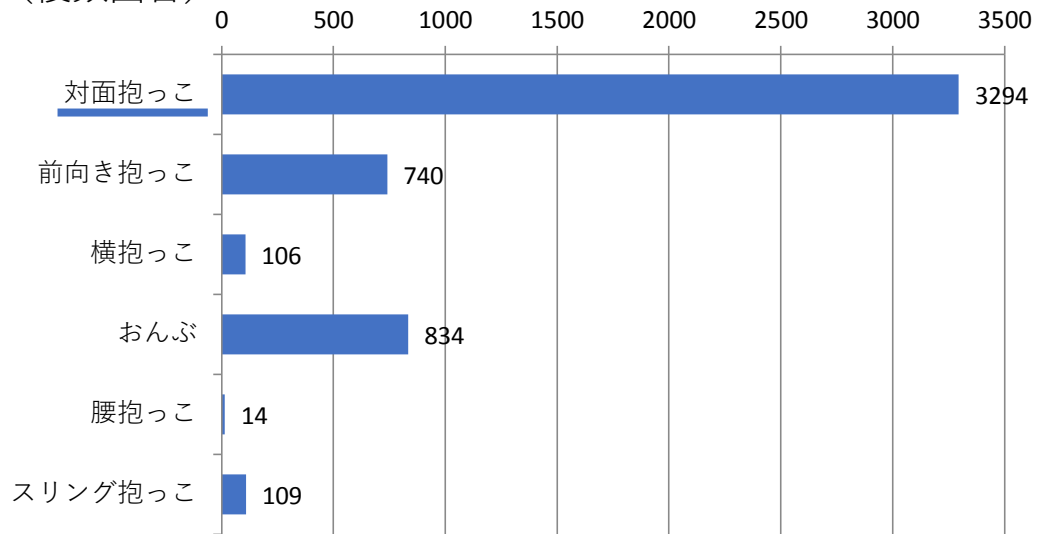
購入場所



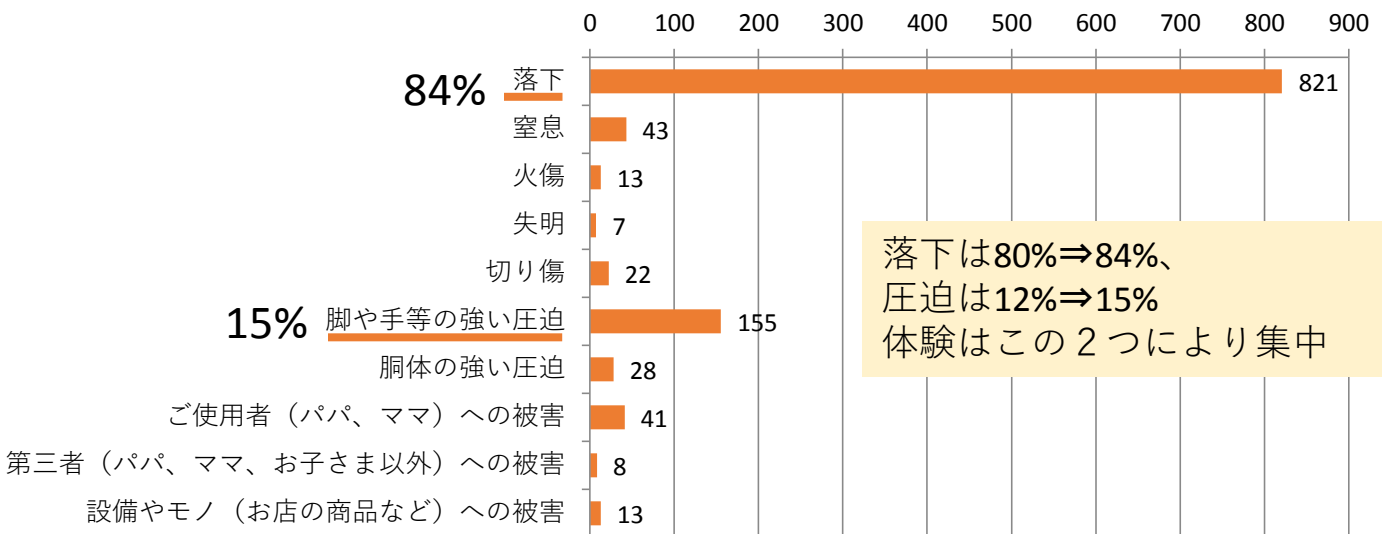
おさがりの割合は7%ありました。

- 専門店 (赤ちゃん本舗やベビーザラス、西松屋、他小売店など)
- オンラインショップ (楽天やアマゾンなど)
- ご出産祝いなどプレゼント(新品)
- デパート
- ご親戚やお知り合いから譲り受けた (おさがり)
- メーカー直営店
- その他
- 総合スーパー (イオンやイトーヨーカドーなど)
- リサイクルショップ、オークション、フリマアプリなど (おさがり)

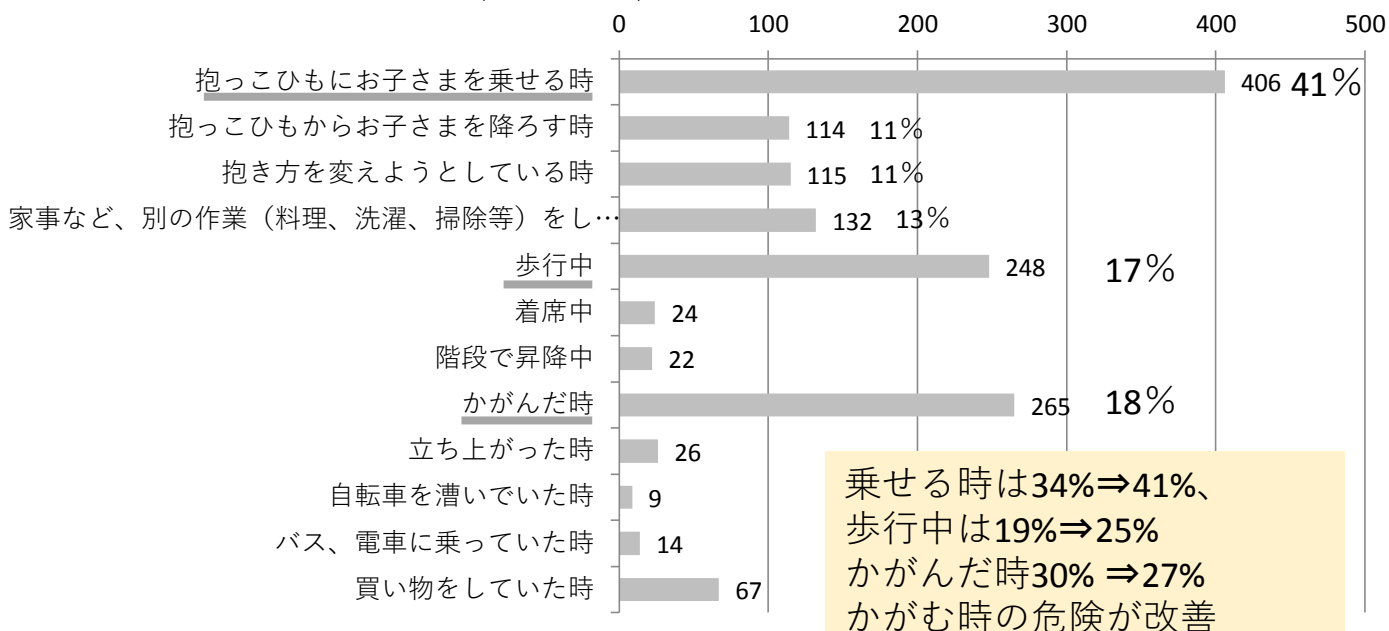
使用方法の種類（複数回答）



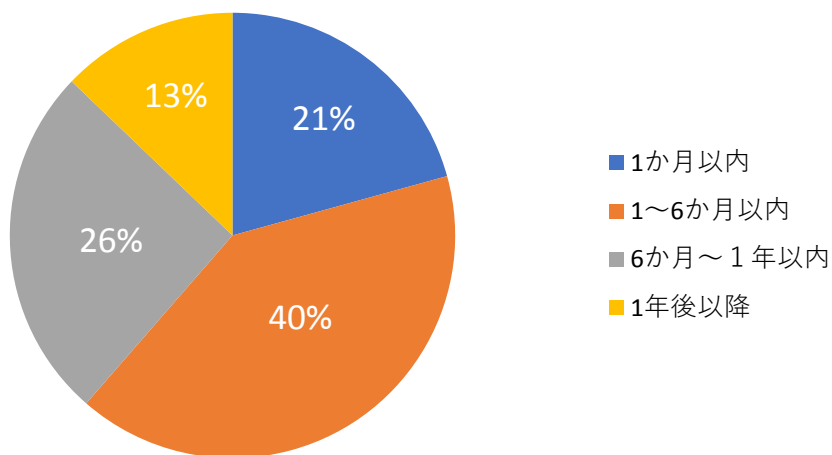
ヒヤリハット体験の種類（複数回答）



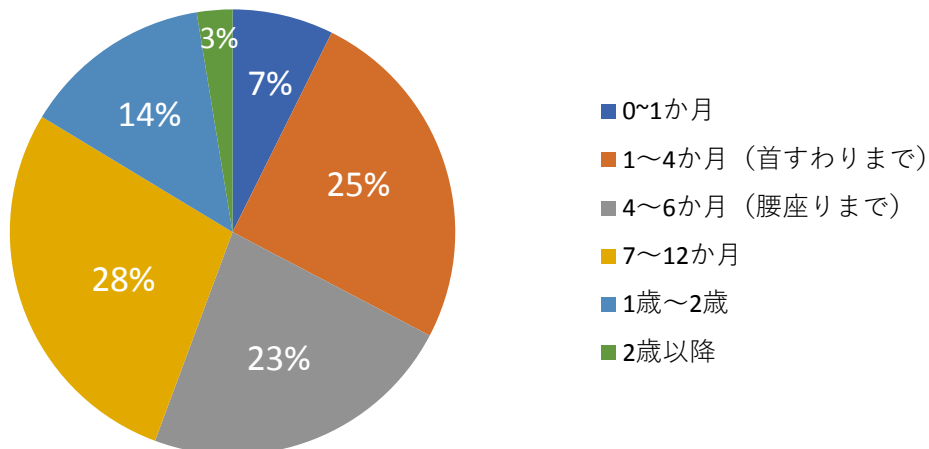
その時、何をしていたか（複数回答）



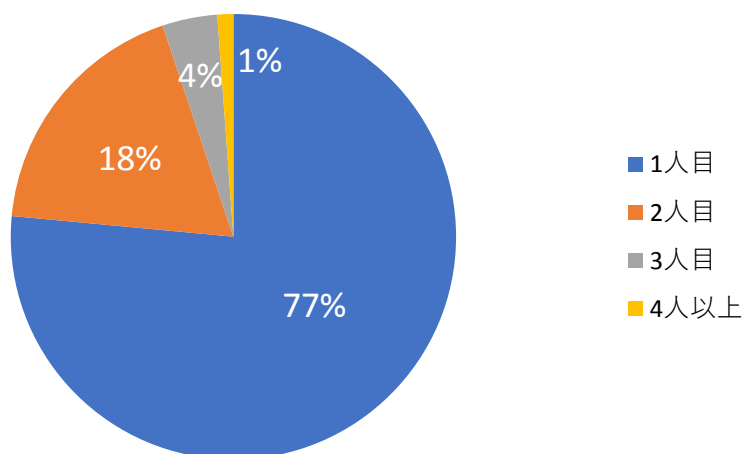
使い始めてからの期間



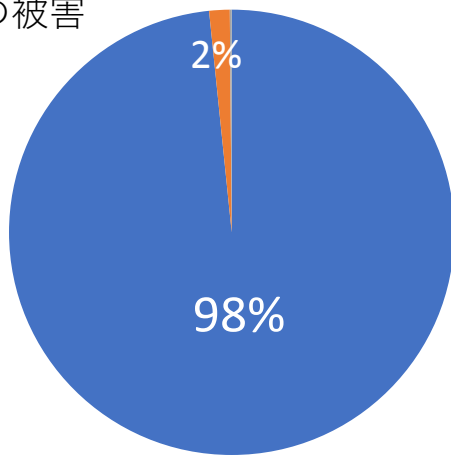
お子さまの月齢



お子さまの人数



実際の被害

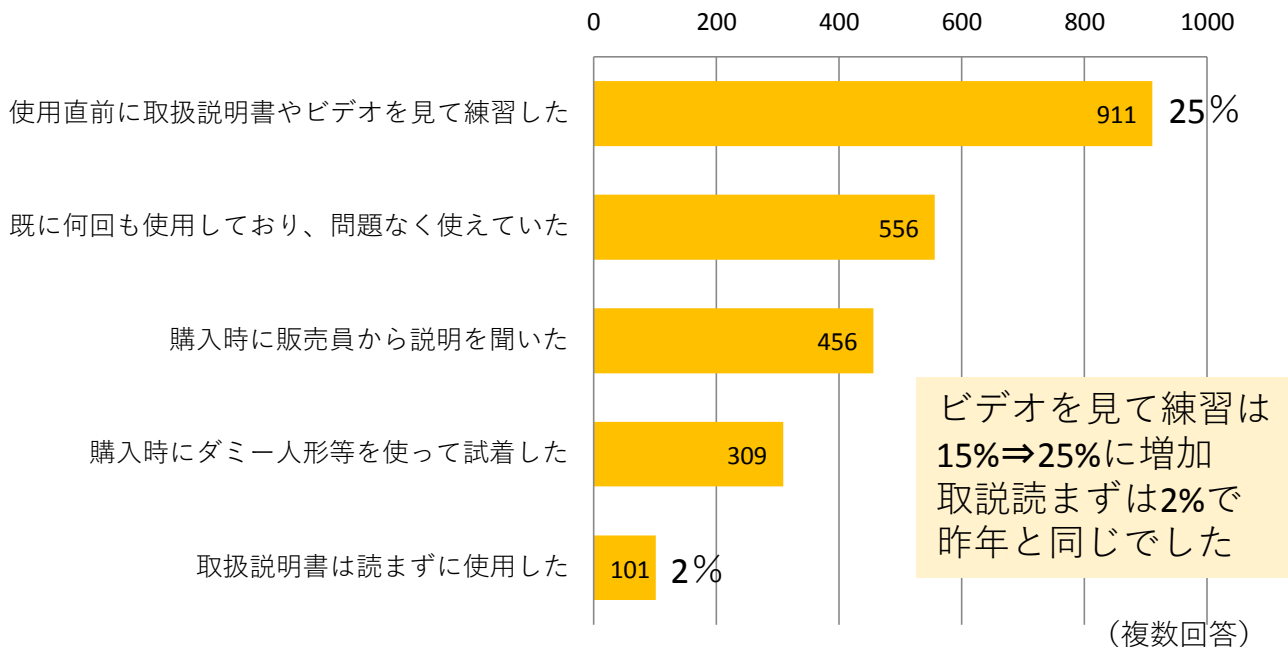


- 特になし
- 軽い事故(怪我)があった
- その他

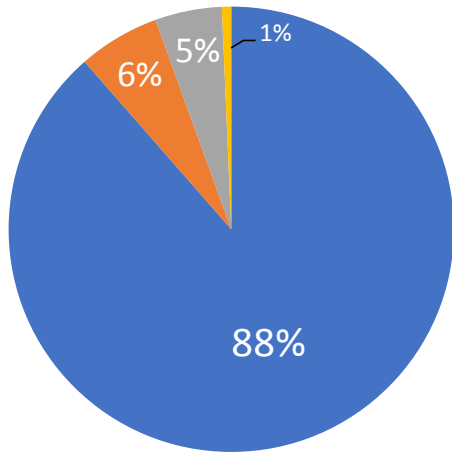
今年度、重い事故(怪我)は0件でした。

- 軽い事故(怪我)は55件あり、落下16件、打撲14件、圧迫7件、転倒5件、挟む4件、その他6件。
- 落下は、落下しそうになった、を含めて、乗せおろしや抱き方を変えるときに発生しており、対面抱っこ時が10件、おんぶの時が5件でした。
- 打撲は、お子さまの頭や手足を壁等にぶつけてしまったというもので、対面抱っことおんぶとは半数ずつでした。お子さまが動いて打つ場合と、おんぶで振り向く際など、周りとの距離感に慣れていない場合があるようです。
- 圧迫は、対面抱っこ時が多く、低月齢時の足うっ血と、お子さまの脚を出す位置が間違っていたケースとが見られました。
- 転倒は、前向き抱っこ時に足元が見えず転んでしまったというもので、抱っこひもを正しく装着していても起こり得るものです。
- 挟むは、バックルを留める際にお子さまや使用者の手指が挟まる、挟みそうになったという内容でした。

使用方法の認識について



取扱説明書について



- 家に保管してある
- 捨てた、紛失した
- 元からなかった
- その他

昨年と比べると、「保管してある」割合が5ポイント増で、「捨てた・紛失した」が、5ポイント減でした。

事後対応について

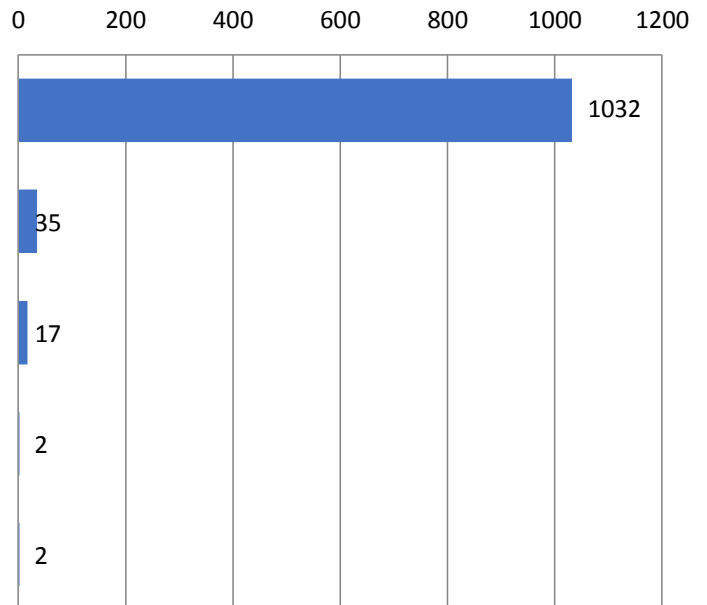
特に何もしなかった（自分の使い方が悪いと思い、以後気をつけた）

メーカーや販売店へ連絡した

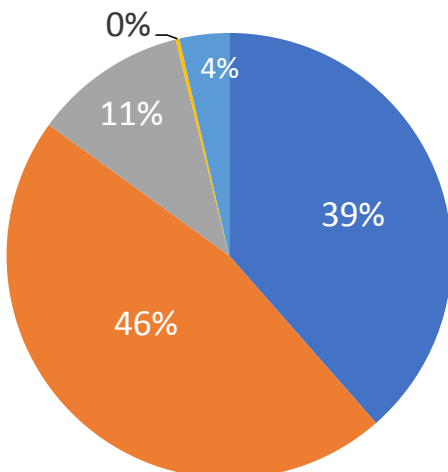
病院に行った

消費者センターへ連絡した

製品安全協会に連絡した



現在 安全に使用できているか？



- とても安全に使えている
- 安全に使えている
- 危ないと思うことがある
- 使用していない
- その他

「危ないと思うことがある」は、昨年20%⇒11%と、9ポイント減になりました。

月齢別に見るヒヤリハット事例と発生状況

回答いただいたヒヤリハットの発生した時の状況 TOP3 「抱っこひもにお子さまを乗せる時」「かがんだ時」「歩行中」について、お子さまの月齢別に、その発生内容を検証します。

月齢別に見るヒヤリハット事例と発生状況

状況/月齢	0-1ヶ月	1-4ヶ月	4-6ヶ月	7-12ヶ月	1-2歳	2歳以上	
抱っこひもにお子さまを乗せる時	35 9%	128 32%	97 25%	105 27%	24 6%	5 1%	394 100%
抱っこひもからお子さまを降ろす時	10 9%	34 30%	20 18%	35 31%	12 11%	2 2%	113 100%
抱き方を変えようとしている時	3 3%	5 4%	33 29%	50 44%	21 18%	2 2%	114 100%
家事など、別の作業（料理、洗濯、掃除等）をしている時	6 5%	26 20%	43 33%	35 27%	19 14%	3 2%	132 100%
歩行中	15 6%	64 26%	55 23%	73 30%	35 14%	2 1%	244 100%
着席中	4 17%	4 17%	4 17%	11 46%	1 4%	0 0%	24 100%
階段で昇降中	2 9%	7 32%	5 23%	6 27%	2 9%	0 0%	22 100%
かがんだ時	14 5%	61 23%	71 27%	82 31%	29 11%	5 2%	262 100%
立ち上がった時	4 16%	5 20%	7 28%	7 28%	2 8%	0 0%	25 100%
自転車を漕いでいた時	0 0%	0 0%	1 11%	4 44%	3 33%	1 11%	9 100%
バス、電車に乗っていた時	2 14%	1 7%	2 14%	5 36%	4 29%	0 0%	14 100%
買い物をしていた時	4 6%	18 27%	13 20%	18 27%	13 20%	0 0%	66 100%

第3位 歩行中のヒヤリハット 25% (昨年19%)

第1回、第2回に引き続き顕著なヒヤリハット事例。成長するほどお子さまの体重が増え、歩行中に不安定になるのに加え、突然のけ反るような動きをし、抱っひもから抜け出てしまいそうになるという事象です。低月齢では、使用中うっ血に気づいた等の回答が目立ちました。

■報告いただいた事例

太ももが圧迫されるのか、足の色が紫になってしまった (1-4ヶ月)

3時間くらい抱っこ紐をつけていると、足の甲が紫色になって鬱血していた事 (1-4ヶ月)

子どもが動いた勢いで肩ひもが肩からずれそうになった。。 (4-6ヶ月)

赤ちゃんがむずがって反る動きをした時に頭から落ちそうになり、ヒヤリとしました。。 (7-12ヶ月)

おんぶをしている時に、反り返られた時、見えないし支えないしで落ちそうになりました。怖かったです。 (7-12ヶ月)

動けるようになると、上から腕をだして、外側に反るようになるので、手で支えないと落ちそうになる。 (1-2歳)

第2位 かがんだ時のヒヤリハット 27% (昨年30%)

かがんだ時とは、パパママがお辞儀のような格好をしてしまうというものです。鞆を置く、落し物を拾うなど、ふとした日常動作で起こるヒヤリハット。

昨年30%から今年は27%と3%ほど改善されました。

抱っこひもを日常から使用し、着けていることも当たり前になると、「落し物を拾う」「靴を履く」などの日常動作を 抱っこひもを使用していないときのように腰を折り行ってしまうという事例が多く報告されています。(昨年30%)

何か下にあるものを拾うなどするときは、必ず膝を折り、腰を曲げることなく、上体を保ちながら拾うように、注意が必要です。

■報告いただいた事例

靴を履こうと前屈みになった時にするりとあかちゃんが落ちそうになった。(1-4ヶ月)

靴紐を結ぼうと屈んだ時に落ちそうになった。(1-4ヶ月)

首の後ろで留めるバックルを締めようと前屈みになったときに子どもが抱っこひもからすべり落ちそうになった(1-4ヶ月)

重い荷物を下から持ち上げよとしてかがんだら、赤ちゃんが頭から落ちていきそうになった。いつもなるべく赤ちゃんの背中に片手を添えているのですぐに抱き抱えて落ちずに済んだ。(4-6ヶ月)

グッときつめにしめると赤ちゃんが苦しいのではないかとすこし緩く紐を調節していたら下にかがんだ時に赤ちゃんがスルッと落ちそうになった。(1歳-2歳)

物を落としてしまい拾うためにかがもうとしたら子供がずれて頭側から転落しそうになった。(2歳)

第1位 抱っこひもにお子さまを乗せる時のヒヤリハット 41% (昨年34%)

抱っこひもの装着時は、バックルを留めるなどお子さまから手を離して行うことがあるため、特に注意が必要となります。装着時に体験したヒヤリハットの内容を集計してみると、昨年同様に「すり抜け」「仰け反り」が装着の過程において高い確立で起こるという結果がわかりました。製品安全協会が定める安全基準のように、慣れるまではベッド等の柔らかな場所の上で、低い位置で装着を行うことが大切であるといえるでしょう。

今年度新しく、またもっとも高い装着時のヒヤリハット原因としてでてきた回答は「正しく使用できない・装着のミス等」でした。0ヶ月から6ヶ月までの期間、最も高い結果でした。また、「抱っこひも内での乳幼児の姿勢」が原因でのヒヤリハットも1~4ヶ月の期間のみ高い数値がでていたことも新しい傾向でした。

これらの新しい傾向は新生児から低月齢で顕著に表れており、昨年度から7%上昇した理由と考えられます。

最後に装着時のヒヤリハットの回答中、21件実際の落下が確認されました。結果的に重度の事故にならなかったとはいえ、落下は極めて危険な事故になります。再発防止に努めなければなりません。

お子さまを乗せる時のヒヤリハット事例 月齢別の発生状況

	0～1ヶ月	1～4ヶ月	4～6ヶ月	7～12ヶ月	1歳～2歳	2歳以降	TOTAL
乳幼児姿勢 首かっくん 折れ曲がり 開脚	3	18	6	10	0	0	37
抱っこひも破損	1	2	0	3	0	0	6
バックル巻き込む	2	4	2	5	2	0	15
金具・バックルがぶつかる	0	5	2	1	0	0	8
すり抜け 落下	3	21	18	27	4	0	73
暴れる・仰け反り 落下	3	27	20	29	9	2	90
正しくしようできない・ミス・取説難しい 落下	13	37	30	21	5	0	106
うっ血	0	2	3	0	0	0	5
その他	2	6	6	9	3	3	29

□すり抜け・仰け反り

普段使っていない旦那が抱っこ紐を装着した際、バックルを一部とめ忘れてしまった。その際横から子供がすり抜けそうになった。(0～1ヶ月)

首の後ろで留めるバックルを締めようと前屈みになったときに子どもが抱っこひもからすべり落ちそうになった(1～4ヶ月)

おんぶ練習で、赤ちゃんを右手で押さえて左手を輪に通す時、赤ちゃんが大きく動いて右手から私の前面側に頭から落ちかけた。(4～6ヶ月)

おんぶをする際、子どもを落としそうになってしまった。家でおんぶをする際はソファとかを使用してやっていたので問題なかったのですが、外出先の不慣れな場所でした際、上手く背負えず落としそうになった。(7～12ヶ月)

子どもが1歳を超える頃から、両腕を抱っこ紐の上に出すことが多く、更に身長が伸びてくると収まりが悪く暴れると落ちそうになるところがあった。(1歳～2歳)

□正しく使用できない・装着ミス・取扱説明書が難しい等

説明書が私には分かりづらく、新生児がかなり苦しそうに入っていた。(0～1ヶ月)

説明書を読んでも、動画を見ても、首が座ってない子供に付ける付け方、足の開き方が分からなかった。YouTubeに付け方を載せてる一般の方を見てようやくわかった。授乳クッションなど使って自分なりのやり方をみつけ足の開きが楽にできた(1～4ヶ月)

製品に問題はなかったのですが、抱っこ紐不慣れな夫が使う時に手伝っていたら危うく地面に落下させてしまいそうになったことがありました。2人がかりでやっているお互いに相方が支えているだろうと思い込んでしまうことがあります。(1～4ヶ月)

首のところのストラップをカチンとしようとしたが、変な風にかんでしまって、中途半端に引っ掛かり外せなくなりました。とうとうしてもがいていたら、急に外れて、こどもを落としかけた。(7～12ヶ月)

赤ちゃんを乗せる際に先に片足を入れないといけないが、首がすわる前はとても1人では無理。手が3本必要。誰かに入れてもらうしかないが、これがなかなか入らない。首がすわった後はなんとか1人で装着できるようになったが、この足を入れる作業で汗だくでやはり数分はかかる。しかも鏡を見ながらでないは無理。(1歳～2歳)

□乳幼児の姿勢・折れ曲がり・開脚等 1～4ヶ月

自分の不注意だったのですが片方の足がちゃんと出ていなく、中で折れ曲がった状態になっていました。まだ小さいので足が出ていないことに気づかず抱っこしてしまっていました。短時間だったので大事に至らなかったのですがこれが長時間だったらかなり痛かったと思います。まだ自分の意思を伝えられないのでちゃんと私自身が確認しなきゃと思いました。(1～4ヶ月)

赤ちゃんの足をM時にするのをうまくできずに足の形がおかしいと鏡を見て気がついた。(1～4ヶ月)

抱き抱えて抱っこ紐に入れる際に、一瞬子供が足をバタつかせてうまく正しい位置に入れられず変なふうに曲がったままで入り脱臼するかと思った。それ以降は寝かせたままセットするようにしている。(1～4ヶ月)

使っていくにつれてベルトのし調節がゆるくなってきました。新生児から使って3ヶ月で毎日使っているのでもゆるくなるのでしょうか。首がグラツとなりヒヤツとしました。(1～4ヶ月)

新生児から使えるものを買いましたが、最初はお互いがなれておらず、布の中に入れるのがとても大変で、首がグラグラしてしまいました。また、首の向きが上手に変えられず窒息しないか心配でした。(1～4ヶ月)

□実際の落下事例

- ・スリングのポケットに入れる際に、子供を落としてしまった。(0~1ヶ月)
- ・子供が1ヶ月のとき抱っこ紐をセットしてる途中、止める前の横から落下。(0~1ヶ月)
- ・装着中に子供を落としてしまった(0~1ヶ月)
- ・新生児インサートを使用してる時、抱っこしようとしてインサートとともに子どもがベッドの上に落ちた。ベッドがなかったら、かなりの高さから床に落ちていた。(1~4ヶ月)
- ・旦那が使い方を忘れてしまい、確認するのが面倒だったらしく、勘で使用したら、赤ちゃんを床に落としてしまった。(1~4ヶ月)
- ・生後2か月の子どもに使用しているとき、抱っこ紐下からすり抜けて落ちてしまった。事故には至らず、1歳の上の子と併用で使用していたため、股開きチャックを締め忘れ、全開にしており、足の紐も止め忘れていた。内側のチャックは新生児用に上部にしていた。(1~4ヶ月)
- ・肩のバックルを留めている途中で頭から転落(1~4ヶ月)
- ・ヒップシートから落ちた(4~6ヶ月)
- ・使い始めの頃、子供の胴に巻く安全ベルトを着ける際に子どもを背中から床に落としてしまいました。しゃがんで作業しており20~30センチくらいの高さだったので大したことは無かったのですが、まだ1才前で小さかったため大変心配しました。片手で子どもを支えながら反対の手でベルトを巻き、さらにバックルにはめるので毎回「手が三本欲しい」という気持ちでした。事故が起きた時は抱っこ紐に慣れ始めた頃で、支える手が疎かになっていました。ものすごく後悔して、それ以降は絶対落とすまいと、しっかり支えてベルトを巻いています。ベルトは安全のために必要だと思っていますが、使う側の慣れや油断で怖い思いをしました。使い方を間違えることで起きる事故を、製品の工夫で防げたらと思います。例えば安全ベルトが抱っこ紐本体に縫い付けてあって、抱っこのときはバックルをはめるだけ...など。(4~6ヶ月)
- ・子どもを抱っこ紐へ入れる際、子どもが落下した(4~6ヶ月)
- ・赤ちゃんを背中に移動中落としてしまった。(4~6ヶ月)
- ・抱っこ紐に乗せようとした時に、暴れて横から落下した(4~6ヶ月)
- ・肩ストラップの紐より下に子供が手を持っていった事により、横からスルッと落ちた。(車にちょうど乗りこんだ際だったにで怪我等なかった。)椅子に座っており、腰ベルトを外していた事を忘れており、肩ベルトを装着、立ち上がる際に、子供を落としそうになった。(4~6ヶ月)
- ・スリングから子供がずり落ちてしまった。(7~12ヶ月)
- ・腰ベルトを忘れて赤ちゃんを抱っこ紐の片足を通した時に暴れて落ちた(7~12ヶ月)
- ・背負う時に落下。低い位置で、大事に至らなかった(7~12ヶ月)
- ・おんぶをする時は一人ですので、毎回ヒヤヒヤしながらやっていましたが、一度だけ子どもが抱っこ紐を装着している最中に仰け反ってしまい、床に頭から落ちました。(7~12ヶ月)
- ・初めて赤ちゃんをおんぶしようとして落とした(7~12ヶ月)

□実際の落下事例（つづき）

- ・おんぶする時に安全確認をきちんとせず立ち上がったら子供を転落させたことがある。（7～12ヶ月）
- ・横から落とした（7～12ヶ月）
- ・抱っこ紐の背中中のバックルをつけようとした際にバックルをつかんでいた片方の手が滑り、そのまま肩紐がずれて子供が落下しました。（1～2歳）



2019年からの追加質問 1 「自転車の使用」

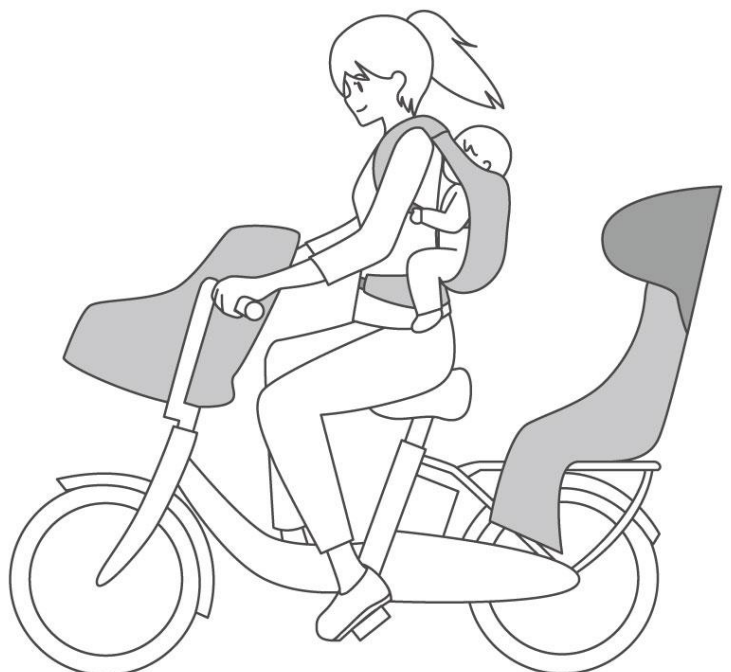
□調査の背景

抱っこひもを使用しながら自転車に乗り、車との接触事故が発生することで、自転車を運転している親ではなく、抱っこ・おんぶされていた乳幼児が死亡するという痛ましい事故が発生しています。多くの抱っこひもメーカーは、抱っこひもを使用して自転車に乗ることを安全上の観点から禁止しています。しかしながら、都道府県の条例では、前抱っこをしての自転車運転は禁じているものの、「おんぶ」をしての自転車運転は禁止となっておりません。製品安全協会では、4ヶ月以降のおんぶを可能としており（SGマーク取得製品）、現状、4ヶ月から「おんぶ」をすれば法律上は、自転車運転は可能となっています。

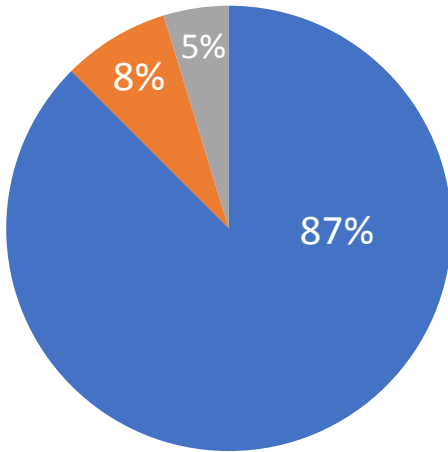
一方、自転車に子供を乗せるためのチャイルドシートは、主に1歳から使用できるものが流通しています。逆に言えば、1歳までは使用できないものです。つまり、4ヶ月から1歳までの期間に子供と自転車に乗りたい場合は、抱っこひもで「おんぶ」をして自転車に乗ることだけが、1歳までの子供の世話をするご両親にとって法律上認められた方法であるといえます。

□調査内容

自転車の利用率、利用頻度、利用の目的、ヒヤリハットの有無を調査し、抱っこひもを装着しながらの自転車運転の利用状況を検証する。



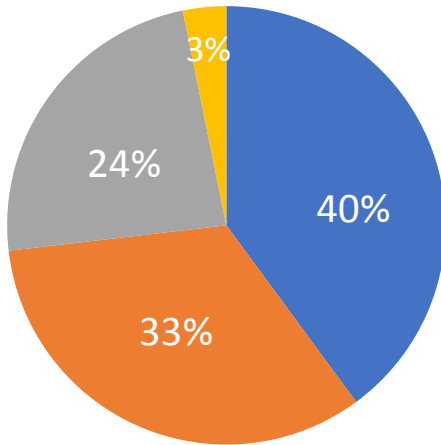
自転車の利用状況について



- 抱っこひもを使用して自転車に乗ることはない
- だっこをして乗ることがある
- おんぶをして乗ることがある

抱っこ8%、おんぶ5%と自転車運転は抱っこが3ポイント多い

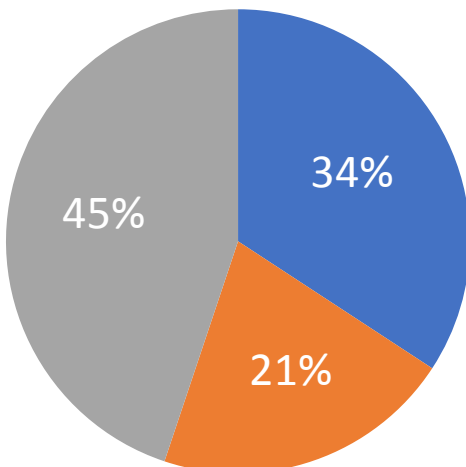
自転車の利用目的 (もっとも利用するものを選択、「乗らない」を省く)



- 買い物
- 送迎
- 外出 (お出かけ等の余暇活動)
- その他

買い物40%、送迎33%日常の継続的な行動目的が70%以上

自転車の利用頻度 (「乗らない」を省く)



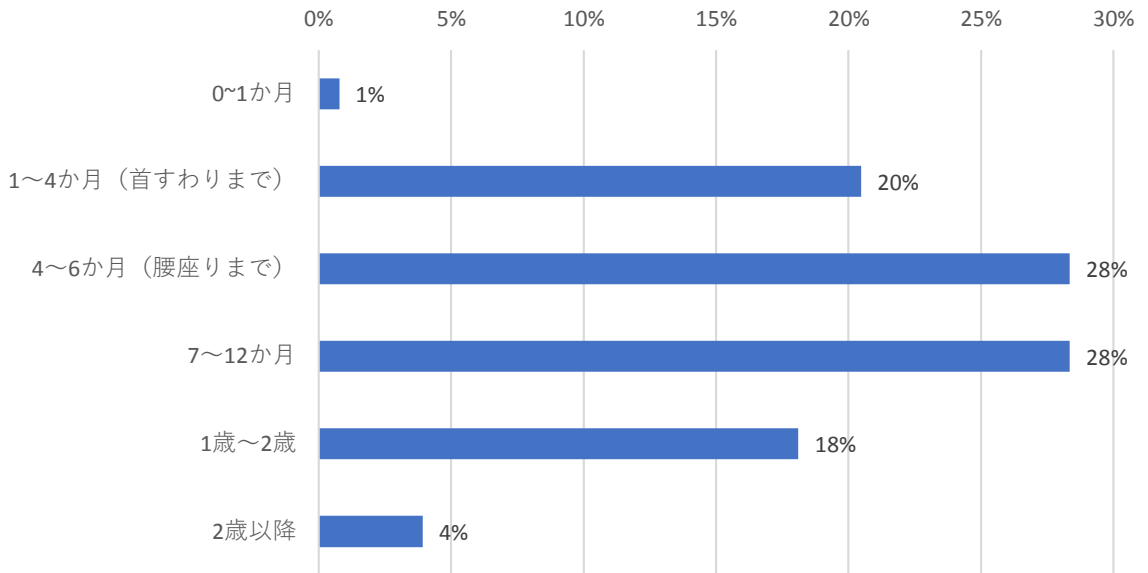
- 日常的 (週4日以上)
- 時々 (週2, 3日)
- ほとんど乗らない (週1日以下)

抱っこひもを使用して自転車に乗る人は、50%以上が週2回以上乗っている。

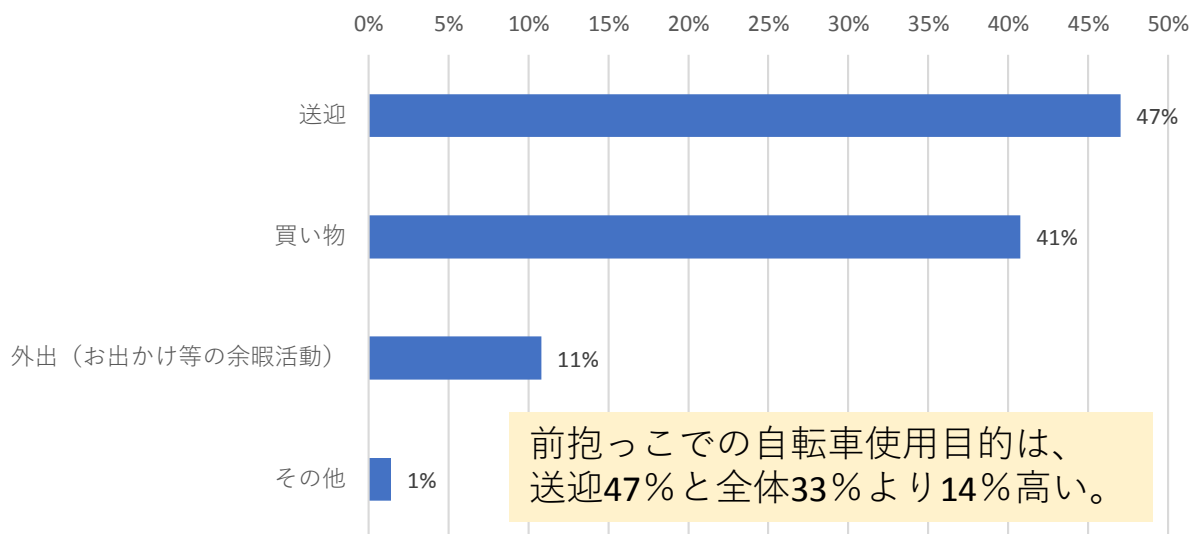
前抱っこでの自転車運転

前抱っこでの自転車運転は、約80%の方が1歳未満のお子さまを乗せており、目的は送迎が47%、買い物が41%と、およそ90%が日常生活の行動として抱っこをしながらの自転車運転が必要になっていきます。

自転車-抱っこ-月齢

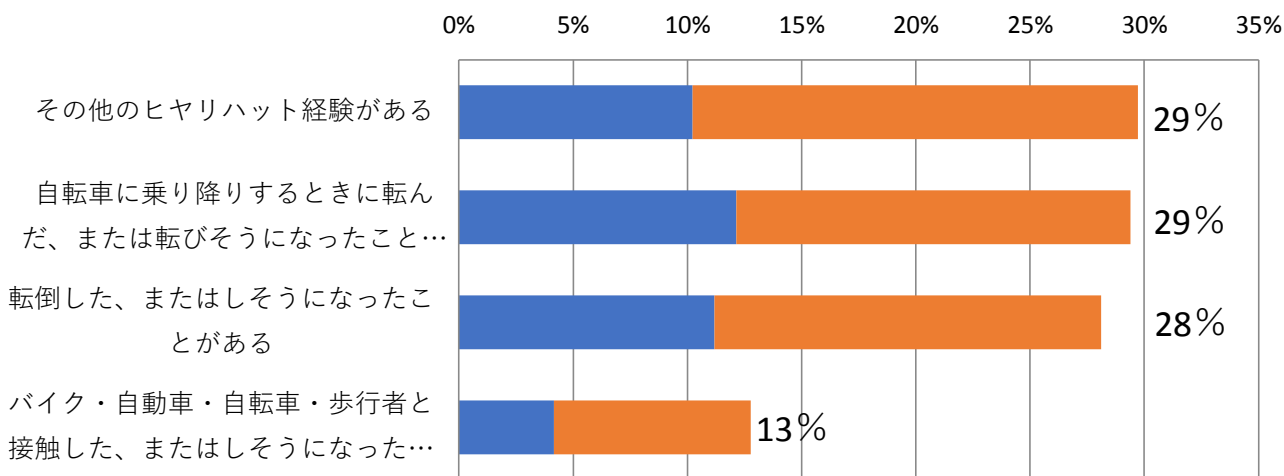


自転車-抱っこ-目的



自転車ヒヤリハット状況×おんぶ・だっこ

(「自転車に乗らないので、ヒヤリハットの経験は無い」を除く)



	バイク・自動車・自転車・歩行者と接触した、またはしそうになったことがある	転倒した、またはしそうになったことがある	自転車に乗り降りするときに転んだ、または転びそうになったことがある	その他のヒヤリハット経験がある
■ おんぶをして乗ることがある	4%	11%	12%	10%
■ だっこをして乗ることがある	9%	17%	17%	19%

「自転車に乗らないので、ヒヤリハットの経験は無い」は全体の91%でした。抱っこで自転車を利用する割合が、おんぶに比べて多いこともあり、ヒヤリハットも、抱っこでの経験が多くなっています。

自転車に乗り降りするときに転んだ、または転びそうになったことがある

- ・ お買い物帰りで、カゴも重たい状態で自転車に乗ろうとした時にバランスを崩した。
- ・ 家の前で自転車に乗る際、抱っこ紐で足元が見えてなくてつまずきそうになった
- ・ 電動自転車の重さに耐えられずよろめいた。
- ・ 子どもを前の座席から下ろすとき、足が引っ掛かり、自転車ごと転倒しそうになった。
- ・ 重くて転びそうになった。
- ・ 家の前で自転車に乗る際、抱っこ紐で足元が見えてなくてつまずきそうになった。

転倒した、またはしそうになったことがある。

- 雨の日に自転車が横滑りしてしまい、転びそうになった。
- 雨上がり道路横にある金属の側溝の蓋にすべった。転びそうになった。
- 子供がぐずって反ったときに倒れそうになってこわかった。
- おんぶで子どもが泣き叫び、気を取られた瞬間に乗せていた子どもが動きバランスを崩した。
- おんぶして自転車に乗っているときに、様子が気になって振り向いたとき少しバランスを崩す。
- 狭い場所で歩行者をよけるために自転車にまたいで歩いているときに、倒れそうになった。

バイク・自動車・自転車・歩行者と接触した、またはしそうになったことがある。

- 歩道を走っていて、バイクが店から突然出てきた。
- 道を曲がる時に車と接触しそうになった。
- 車が急に飛び出してきた。
- 坂道で、横道から自転車が出てきて、出会い頭に急ブレーキをかけ、転倒しそうになった。
- 横からの飛び出してきた自転車にぶつかりそうになった。子供を抱っこしているから急ブレーキをかけられず怖かった
- 見通しの悪い狭い通路を通ろうとした時に、前から来た歩行者、自転車と接触しそうになった。

その他のヒヤリハット経験がある

- 暴れた時に落ちそうになった。
- 抱っこ紐をしていて子供がぐずった時に抱っこ紐から飛び出そうになった。
- 抱っこの赤ちゃんに気をとられて、前方不注意になりそうだった。
- 対面抱っこで走行中、子供が不機嫌になり暴れて走行が大変な時があった。
- 自転車で走行中前向き抱っこで子どもが仰け反ったため、前カゴに頭をぶつけた。
- 赤ちゃんが大きく動いてハンドルを取られそうになった。
- いたずら(髪を引っ張ったり、脱走しようとしたり)をしてきて運転に集中できない。
- 暇がタイヤに巻き込まれそうになった。
- ワイドパンツを履いていたので裾がペダルに引っかかってバランスを崩しそうになった。
- 服がタイヤに巻き込まれそうになった。
- またがって走り始める時に、子供乗せ自転車の前側の座席に、抱っこをしていた乳児の頭が激突した。

2019年からの追加質問2 「使用後の抱っこひもについて」

□調査の背景

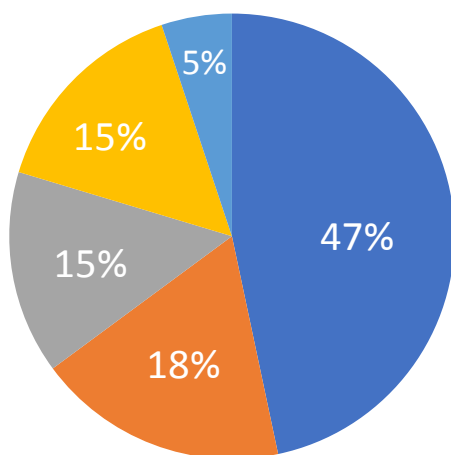
抱っこひも安全協議会では、抱っこひもの2次使用（おさがり・中古品の流通）の増加について、2018年議論を行った。製品の経年劣化や製品の使用状況が管理できないこと等の懸念より、2次使用はメーカーとして安全管理上の観点から、推奨できることではないという意見が大多数であった。

しかしながら、現状としては中古品販売店やフリマアプリ等で多くの抱っこひもが流通している事実への対応として、取扱説明書の閲覧が行えるコンテンツをホームページ上に開設した。

□調査内容

抱っこひも使用者に、使用後の対処方法を質問する。

使用後の抱っこひもについて



- 保管しておく
- お知り合いに譲る
- リサイクルショップなどで売る
- 未定
- 捨てる

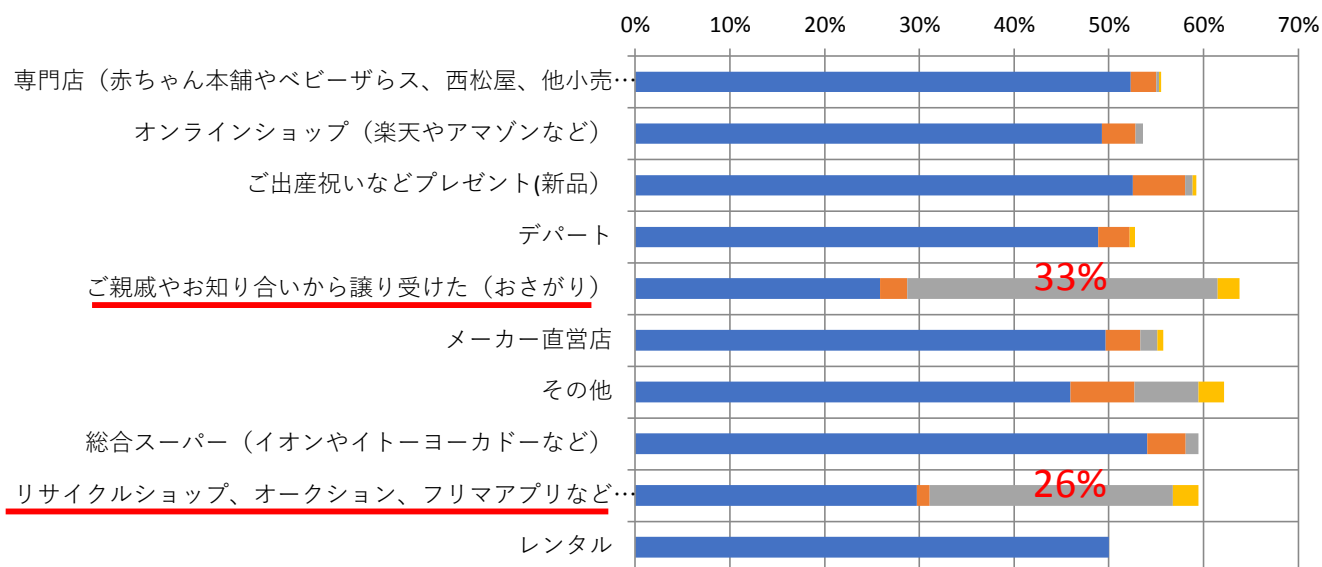
「お知り合いに譲る」、「リサイクルショップなどで売る」・・・2次使用予定が33%有りました。



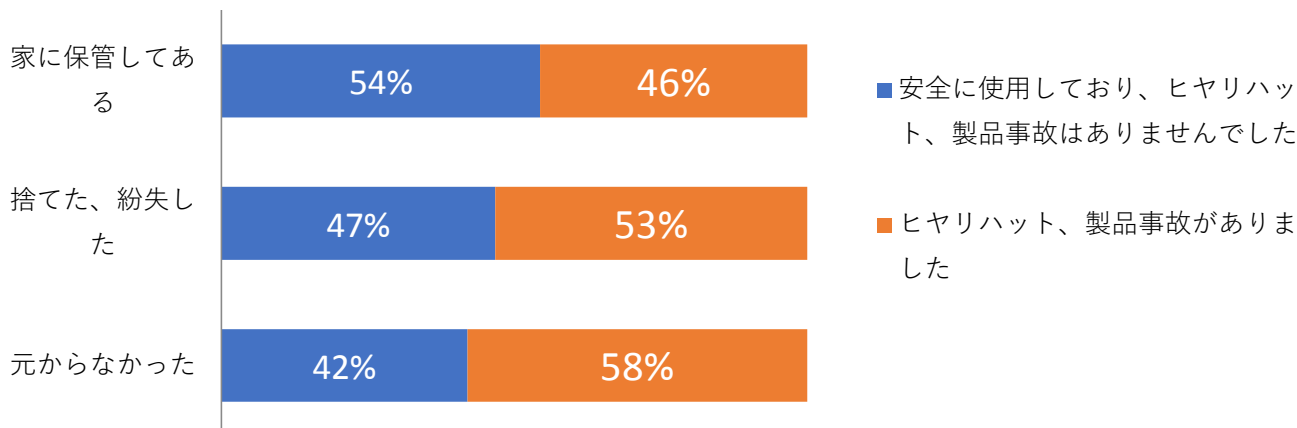
購入場所と取扱説明書について

今回のアンケートにおける「抱っこひもの購入場所」への回答では、7%（およそ260人）の回答者が2次使用（おさがり・フリマアプリ等での購入）製品を使用していました。また「取扱説明書」についての設問では、5%の回答者が「元からなかった」という回答を選択しており、集計の結果からも、2次流通から取扱説明書がない状態で手に入れている使用者が多くいることが分かります。

■ 家に保管してある ■ 捨てた、紛失した ■ 元からなかった ■ その他



取扱説明書とヒヤリハット



取扱説明書を「保管してある」と回答された方に比べて、「元から無かった」、「捨てた、紛失した」という方がヒヤリハットの割合が高くなっています。

抱っこひも安全協議会ホームページ分科会

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社 並川浩子
黄瀬商事株式会社 黄瀬正徳
ベビーヴォルン株式会社 深井誠

